

Jアラート(防災無線)を利用した行動訓練を行います!

訓練放送が聞こえたら身体防御行動や避難行動をとってください!



大地震です!
大地震です!

内閣府および気象庁では津波防災の日(11月5日)に、訓練用の緊急地震速報を全国瞬時警報システム(Jアラート)に配信する全国的な訓練を行います。

本町でも、その訓練放送「大地震です!」を防災無線から放送しますので、放送が聞こえたら、その場でできる限りの約1分間の身体防御や避難行動を取ってください。

訓練放送時間：平成26年11月5日(水) 午前10時00分ごろ

緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間はごくわずかであり、短い時間にあわてず、に身を守る行動をとるためには、あらかじめどのような行動をとるかを知り、実際に行動をとって経験しておくことが大切です。

地震の際の安全確保行動1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」

(日本シェイクアウトHPより)

●室内にいる時に地震が発生したら

その場で安全確保行動1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」を実践しましょう。

- まず体勢を低くして地面に近づきましょう。(強い揺れであなたが倒れる前に!)
- 固定されたデスクやテーブルの下に入り、頭を守りましょう、頭を守るものがない場合は、腕や荷物を使って、頭を守りましょう。
- そして揺れが止まるまで動かずじっとしましょう。

●外出中に地震が発生したら

まず、建物、木、電柱や電線から離れた場所を探し、そこで安全確保行動1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」を実践しましょう。揺れが止まるまでそこにとどまりましょう。



地震の揺れ自体でけがをすることはめったにありません。地震による死傷例の大半は家屋の倒壊や、ガラスの破片や落下物が原因です。安全な場所へ避難しようと長距離を移動することによりけがをする例が最も多く、避難の際の移動距離を最小限にとどめることがとても重要です。

地震が来る前に一度周りを見渡してみてください。家、職場、学校などの屋内で、どこが安全な場所かを確認しましょう。そうすれば、いざ地震が発生した時に素早く行動に移せます。いざという時に素早く安全な場所へ移動するよう反応できることにより、命が救われるかもしれません。

各地で土砂災害による甚大な被害が発生しています。危険箇所を確認しましょう!

(詳しくは洪水ハザードマップや町のホームページをご覧ください。)

問合せ 災害対策事務局(総務課内) ☎76・2131

停電時の設置手順(青葉区)



1 発電機を設置・運転



2 非常電源接続コンセントにつなぐ



3 非常用ブレーカーをオン!



4 非常用の照明が使えます!



5 非常用コンセントが使えます!

中央・青葉・徳富区の会館に非常用電源設備を設置しました!

問合せ 災害対策事務局(総務課内) ☎76・2131



右：通常のコンセント
左：非常用コンセント(赤)

非常用電源設備とは?
会館に発電機専用のコンセントとLED照明を設置し、停電になった時、発電機を玄関の非常電源接続コンセントにつなぐだけで、通常と同様にコンセントや照明が使える仕組みです。

なぜ必要なの?
冬に大規模な停電が発生し、行政区の会館に避難する可能性があります。会館のFFストーブを使うためには電気が必要です。非常用電源設備が無い場合には、発電機を屋外に設置し、延長コードで各部屋のストーブにつなぐ必要があります。また、停電で会館の照明は使えませんが、懐中電灯や電気スタンドを持ち込む必要があります。非常電源設備が設置されていれば、災害時に区民で簡単に発電機をつなぎ灯りや暖をとることが出来ます。

他の会館には?
今回は、耐震基準を満たしているため建て替えの必要がない会館を対象に非常用電源設備を設置しました。大和区会館は現在行っている大規模改修工事で非常用電源設備を設置します。耐震基準を満たしていない他の7カ所の会館は、平成27年度から3年間で順次建て替えを行う計画のため、その工事の中で非常用電源設備を設置します。

広範囲で災害が発生した場合、行政だけでは対応できないこともあります。自主防災組織を設立し、日頃からの防災活動をお願いします。

学ぼう明日へ！ サポート通信 31

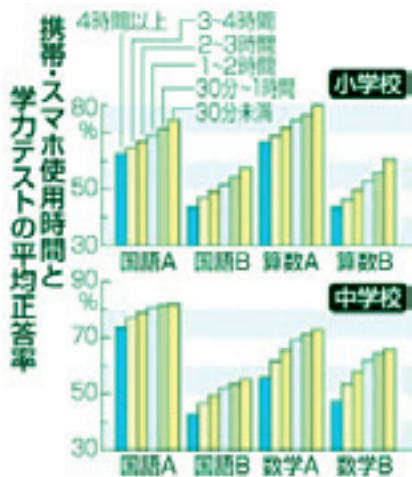
インターネットと学力

文部科学省が、全国学力・学習状況調査とともに行った児童・生徒アンケートで、メール、インターネットの使用時間が長いほど、学力テストの成績が低いことが分かりました。

メールが気になって他のことが手に付かない、夜中まで使用して生活習慣が乱れるなど、たくさん要因がありますが、これらはご家庭で事前に防げることがほとんどです。

まずは、個人で自由に使えるパソコンやスマホといったインターネットの環境が本来に必要なか、また、睡眠や学習、家族との時間など、今までの生活に必要な時間を犠牲にしているのかなど、改めて考えることが大事だと思います。

ただし、インターネット環境を制限したからといって自然と学力が上がるわけではありません。



規則正しい生活環境を確保した次は、やはり机に向かって学習することが学力向上には欠かせません。

まずは、短時間でも、とにかく机に向かう時間を作ることが必須です。

お子さんがインターネットを利用していらっしゃるご家庭は、下の項目とお子さんの状況を比べてみてください。

2つ以上当てはまれば、今一度、見直す必要があるかもしれません。

- インターネットに夢中になっていると感じる。
- 子どもの満足のため、ネットの時間を今よりも長くする必要があると感じる。
- 使用の制限をしようとしたが、うまくいかなかったことがある。
- 使用時間を短くしたり、止めようとした時に落ち込みやイライラを感じた。
- はじめに意図したよりも長い時間ネットを使用している。
- ネットで人間関係や学校、部活のことを危うくしたことがある。
- 熱中しすぎを隠すために使用の時間や頻度をごまかすことがある。
- 問題や落込み、不安から逃げるためにネットを使用している。
- 必要な時間を犠牲にしてネットをしている。